

## パブリックコメント手続（ご意見の募集）

### 「第2期茅ヶ崎市まち・ひと・しごと創生 総合戦略（素案）」について

※ パブリックコメントとは、市が計画等を策定する際にその内容を公表し、市民のみなさまから寄せられたご意見等を考慮して計画等の決定をしていくものです。

### ご意見の募集期間

令和3年1月21日（木）～ 令和3年2月24日（水）

お問い合わせ：企画部企画経営課長寿社会推進担当

電話 0467-82-1111（代表）

茅ヶ崎市

---

-目 次-

1	国・県の取り組み	1
2	茅ヶ崎市の現状	1
	(1)「ひと」の現状	1
	(2)「しごと」(地域経済)の現状	3
	(3)「まち」の現状	4
3	本戦略の位置づけ	5
4	計画期間	5
5	本戦略策定にあたっての基本姿勢	5
6	将来都市像と基本目標	5
7	基本目標と主な取り組み	6
	[基本目標1] 結婚・出産・子育ての希望をかなえ、茅ヶ崎への人の流れをつくる	6
	[基本目標2] 地域で働き、地域が稼げる環境をつくる	7
	[基本目標3] 魅力的で、安心して暮らすことができる地域をつくる	8
8	本戦略の推進にあたって	9

## 1 国・県の取り組み

国は令和元（2019）年12月に「第2期 まち・ひと・しごと創生総合戦略」（計画期間：令和2（2020）～6（2024）年度）を策定し、神奈川県は令和2（2020）年3月に「第2期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略」（計画期間：令和2（2020）～6（2024）年度）を策定し、それぞれ基本目標を定め、地方創生を推進しています。

国		神奈川県	
目指すべき将来	基本目標	基本目標	
「活力ある地域社会」の実現 将来にわたって 「東京圏への一極集中」の是正	地域の外から稼ぐ力を高めるとともに、地域内経済循環を実現する	経済のエンジンを回して魅力的なしごとを産み出し、一人ひとりが生き生きと働ける神奈川を創る	しごと
	人口減少に適応した地域をつくる	ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる	まち
	人口減少を和らげる 魅力を育み、ひとが集う 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	結婚・出産・子育ての希望をかなえる	ひと
		地方とのつながりを築き、地方への新しい人の流れをつくる	

図1 国の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標と第2期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標の対応関係

## 2 茅ヶ崎市の現状

### (1) 「ひと」の現状

平成27（2015）年国勢調査を基にした人口推計では、本市の人口は令和2（2020）年の24万690人をピークに減少傾向に転じると推計していました。また、「茅ヶ崎市人口ビジョン」（平成28（2016）年策定、以下「人口ビジョン」という。）では、本市の人口は令和7（2025）年まで増加し、その後微減傾向を維持することを将来目標人口として設定しています。

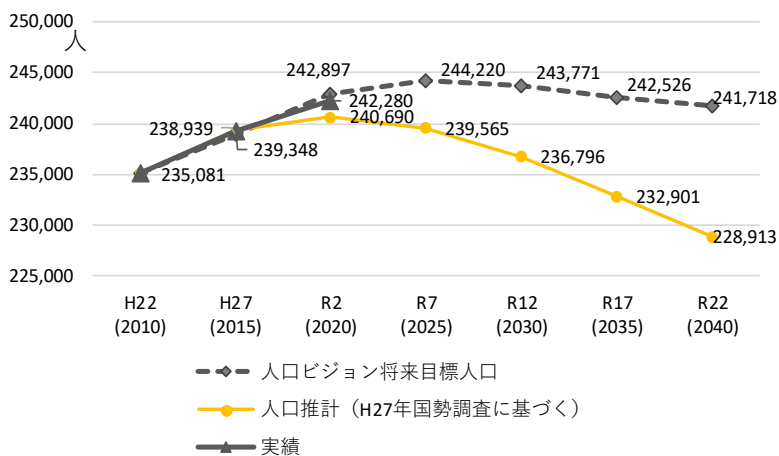


図2 茅ヶ崎市の将来目標人口・人口推計・実績

自然増減の推移をみると、出生数と死亡数が平成 26（2014）年に逆転し、近年ではその差が拡大しています。

自然減が増加しているにもかかわらず、人口が継続して増加している要因は、社会増、特に 30～40 歳代と 10 歳未満の世代の転入が多いためとなっています。

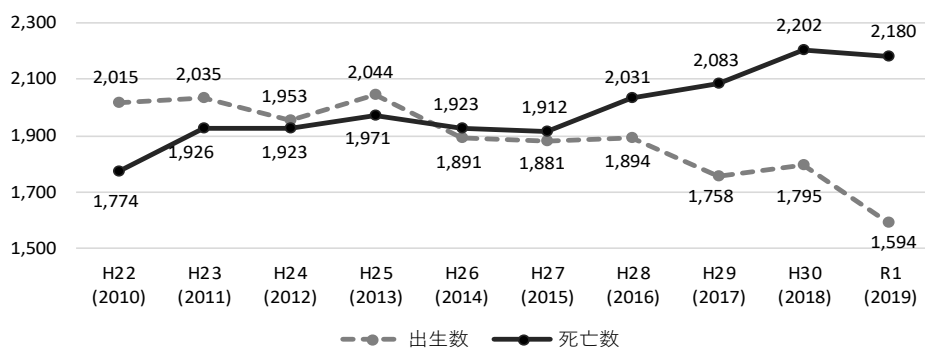


図3 出生数と死亡数の推移  
(出典：神奈川県年齢別人口統計調査)

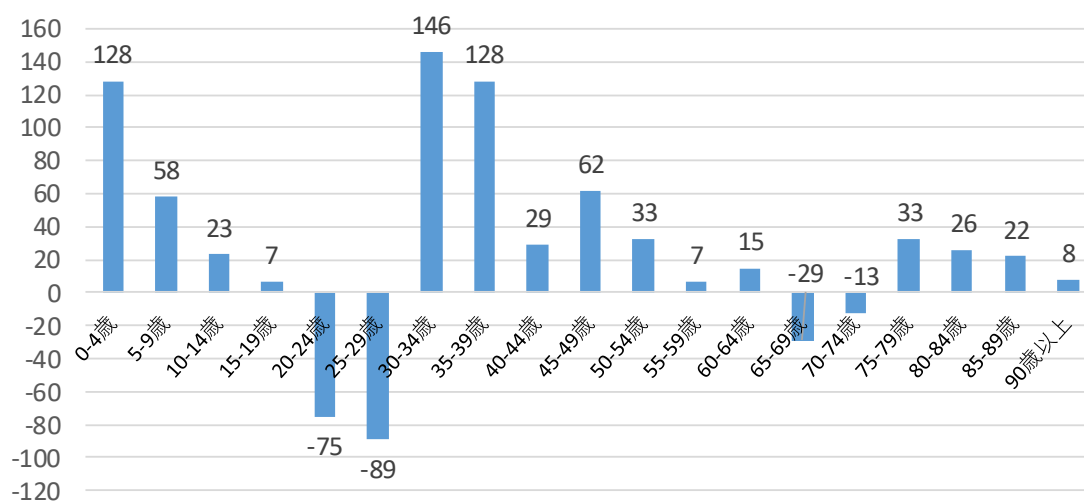


図4 年齢別の人口の社会増・社会減（平成 31 年・令和元年実績）  
(出典：神奈川県年齢別人口統計調査)

## (2) 「しごと」(地域経済)の現状

市内の事業所数、従業者数は近年減少しています。その一因としては労働力人口の減少が挙げられます。

地域経済・働く場の満足度を見ると、全体では労働環境、就労機会はマイナスとなり満足度が低く、特に30～40歳代、50～60歳代の満足度が低くなっています。商工業振興、農水産業振興、観光振興は年齢が高くなるにつれ満足度が低くなっています。

表1 市内事業所数・市内従業者数の推移  
(出典：経済センサス 活動調査)

	平成24年	平成28年	平成24年 との比較
市内事業所数	7,003	6,724	-4.0%
市内従業者数	58,858	55,805	-5.2%

表2 市内労働力人口の推移  
(出典：国勢調査)

	平成22年	平成27年	平成22年 との比較
労働力人口	113,836	111,987	-1.6%

表3 市民の地域経済・働く場の満足度  
(出典：令和元年度茅ヶ崎市市民意識調査)

項目名	満足度					
	全体	年齢別				20-40歳代 (親世代)で 子どものい る世帯
		10-20 歳代	30-40 歳代	50-60 歳代	70歳代 以上	
商工業振興	0.094	0.371	0.090	0.048	0.064	0.112
農水産業振興	0.293	0.525	0.376	0.186	0.266	0.355
観光振興	0.042	0.220	0.118	-0.041	-0.003	0.073
労働環境	-0.154	0.050	-0.189	-0.197	-0.117	-0.145
就労機会	-0.226	-0.043	-0.264	-0.253	-0.203	-0.259

※1 満足度は「満足」を2ポイント、「まあ満足」を1ポイント、「どちらともいえない」を0ポイント、「やや不満」を-1ポイント、「不満」を-2ポイントとし、加重平均により算出

※2 塗りつぶしてある欄は各項目の全体値よりも点数が低いもの

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2(2020)年4月以降、藤沢公共職業安定所管内の有効求人倍率は大幅に落ち込んでいます。本市内でも、同様の状況にあると想定され、本市内の「しごと」(地域経済)は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて落ち込んでいることと想定されます。

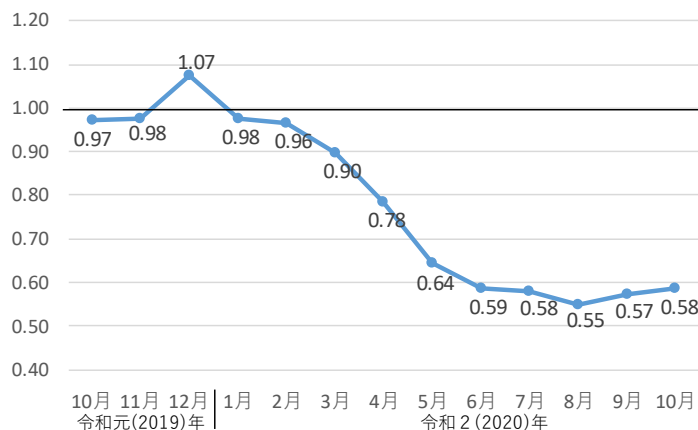


図5 藤沢公共職業安定所での有効求人倍率の推移

### (3) 「まち」の現状

全ての世代で 35%以上の方が「心地よく暮らせる居住環境がある」「自然や緑、水が豊か」を本市の魅力として挙げており、自然が豊かで良好な居住環境がある点が本市の魅力となっています。

「買い物が便利」は全ての世代で 30%以上となっていますが、年齢が高くなるに従い、魅力とを感じる人の割合は高くなっています。

「災害や犯罪が少ない」「公害がなく、まちが清潔」「海の幸や農産物に恵まれて食が豊か」など、70 歳代以上は他の世代よりも市の魅力を感じている割合が高くなっています。

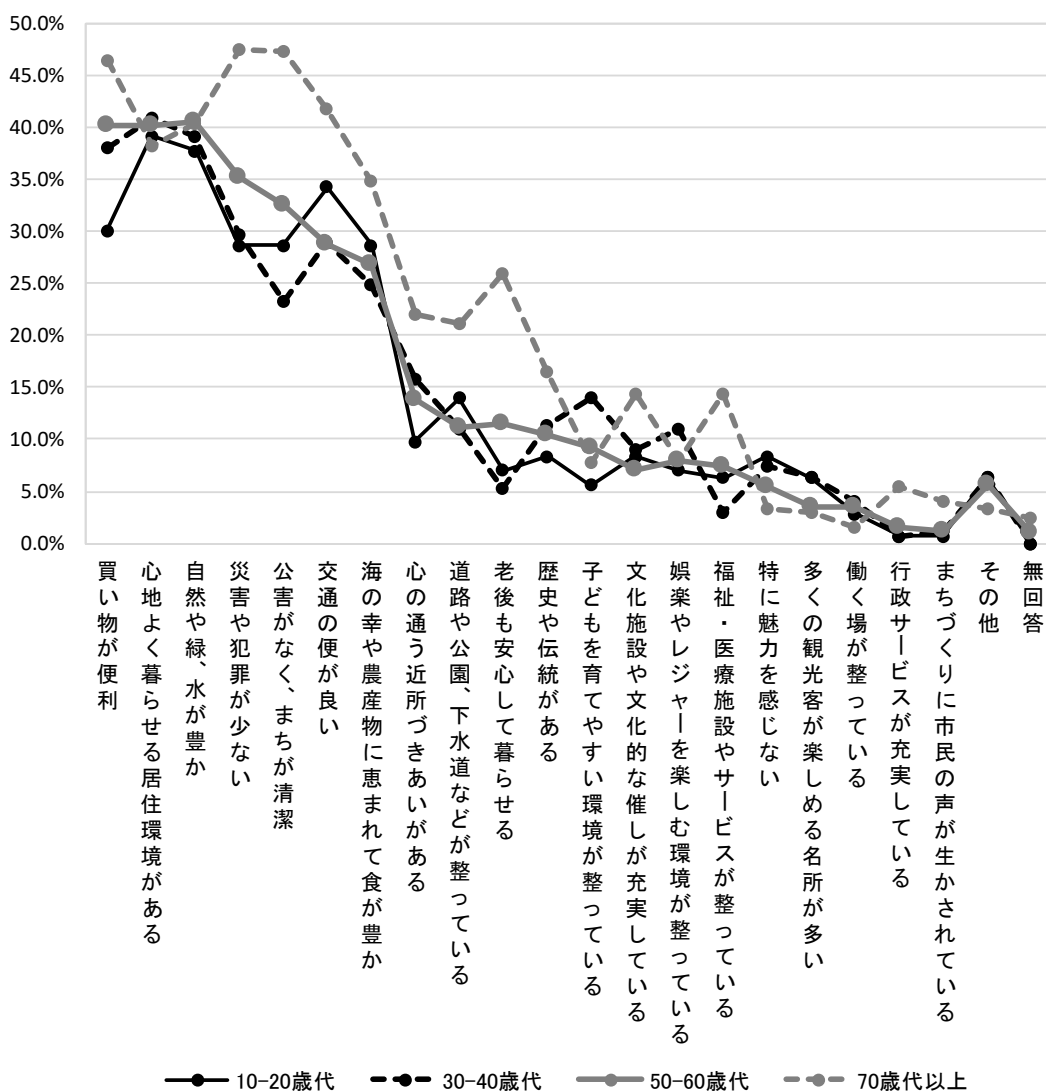


図6 茅ヶ崎市の魅力（出典：令和元年度茅ヶ崎市市民意識調査）

### 3 本戦略の位置づけ

第2期茅ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「本戦略」という。）は、まち・ひと・しごと創生法に定める市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略で、国からの地方創生関係の支援を受けるためには、市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定が必要となっています。

本戦略の計画期間中に総合計画実施計画を策定する場合には、本戦略の計画期間内であっても、総合計画実施計画にまち・ひと・しごと創生総合戦略を一体化して策定することを検討します。

### 4 計画期間

計画期間は令和3（2021）年度から令和7年（2025）度末までの5年間とします。

### 5 本戦略策定にあたっての基本姿勢

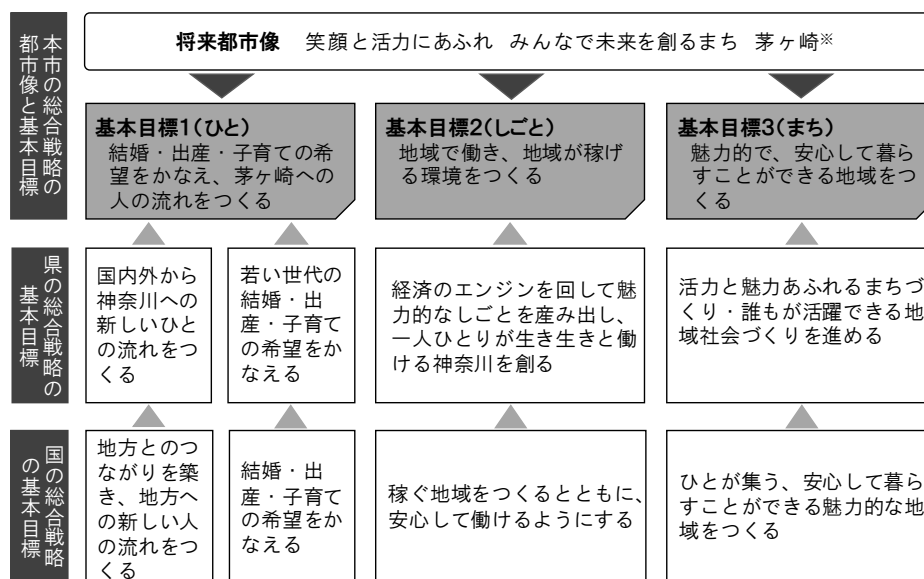
本戦略は、新型コロナウイルス感染症の影響による社会活動、経済活動の変化に柔軟に対応できるよう、次の点を基本姿勢とします。

- ① 将来的に総合計画実施計画と一体化可能な戦略
- ② 新しい生活様式の構築に対応できる戦略
- ③ 目標値は新型コロナウイルス感染症感染拡大以前の水準への回復

### 6 将来都市像と基本目標

まち・ひと・しごとの現状を踏まえ、人口減少、少子高齢社会において、本市が多様な主体の共創により活力あるまちとなるよう、将来都市像と将来都市像を達成するための基本目標を次のように定めます。

また、本戦略の基本目標は、国、県のまち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標に対し、次のように対応しています。



※将来都市像は茅ヶ崎市総合計画と整合を図り、同一の将来都市像を設定しています。

## 7 基本目標と主な取り組み

### [基本目標1] 結婚・出産・子育ての希望をかなえ、茅ヶ崎への人の流れをつくる

成果指標		現状値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)	
① 「子どもを育てやすい環境」への市民の満足度		35.8% <sup>1</sup>	35.8%	
② 出生数		1594人 <sup>2</sup>	1594人	
③ 人口の社会増		9064人	9064人	
取り組み指針	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ひと」の面から活力ある地域づくりを進めます。</li> <li>多様な主体で子育てを支える仕組みが構築され、安心して子どもを産み育てることができる環境をつくりまします。</li> <li>子育て世代の本市への継続的な転入を維持するため、子育て世代に向け、本市でのライフスタイルへの興味を深めるきっかけづくりなど、本市での暮らしのプロモーションに取り組みまします。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、人々の居住地の選択等に対する意識が変化している可能性があります。ウィズ・コロナ時代のライフスタイル、人々の意識・志向に留意して取り組みを進めます。</li> </ul>			
主な取り組み	概要	KPI (重要業績評価指標)	現状値	目標値
	保育サービス等の充実	保育園の待機児童数	5人	0人
	子育て世代の転入促進 プロモーション	25～44歳の転入者数	4464人 <sup>3</sup>	4464人

<sup>1</sup> 令和元年度茅ヶ崎市市民意識調査での、子どもを育てる環境に関係する3つの指標（安心して子どもを産み育てることができる環境、多様なニーズに応じた保育サービス、子ども・若者が、地域の中で安心して過ごすことができる環境）の満足度から算出

<sup>2</sup> 神奈川県人口統計調査結果報告（平成31年1月から令和元年12月）

<sup>3</sup> 神奈川県年齢別人口統計調査



**【基本目標 2】 地域で働き、地域が稼げる環境をつくる**

成果指標		現状値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)	
① 「地域経済の活性化に向けた取組」に対する市民の満足度		33.2% <sup>4</sup>	33.2%	
② 「市内での多様な働き方や働く場の創出」に対する市民の満足度		12.1% <sup>5</sup>	12.1%	
取り組み指針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「しごと（地域経済）」の面からの活力ある地域づくりを進めます。</li> <li>・多様な主体の連携・協力を促進し、誰もが働きやすい環境づくり、働く場や創業の機会づくりに取り組みます。</li> <li>・地域経済を担う市内事業者の活動や、地域特性を生かしたにぎわいの創出に向けた取り組み、農地や漁港の持つ多面的な機能を生かした取り組み、自然環境や歴史・文化等の資源を活用し、地域が稼げる環境をつくりまします。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、人々の「しごと」や「地域」への意識が変化している可能性があります。ウィズ・コロナ時代のライフスタイル、人々の意識・志向に留意して取り組みを進めます。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症により、市内経済は大きな影響を受けていると推察されるため、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の水準への回復を目指します。</li> </ul>			
	主な取り組み	概要	KPI (重要業績評価指標)	現状値
	新規の働く場の創出	新設事業所の従業者数	4574人 <sup>6</sup>	4574人
	地域が稼げる環境づくり	市内事業所数	7786事業所 <sup>6</sup>	7786事業所

<sup>4</sup> 令和元年度茅ヶ崎市市民意識調査での、地域経済に関係する3つの指標（市内の店舗や企業の活発な事業活動、地場の魅力的な農水産物、地域資源を生かした観光振興）の満足度から算出

<sup>5</sup> 令和元年度茅ヶ崎市市民意識調査での、働き方・働く場に関する2つの指標（ライフスタイルに応じた働き方ができる市内の労働環境、希望に合った就労機会の提供）の満足度から算出

<sup>6</sup> 令和元年経済センサス基礎調査

**【基本目標3】 魅力的で、安心して暮らすことができる地域をつくる**

成 果 指 標		現状値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)	
「今後も住みたい」と思う市民の割合		58.5% <sup>7</sup>	61.4%	
取 り 組 み 指 針	<ul style="list-style-type: none"> <li>「まち」の面から活力ある地域づくりを進めます。</li> <li>本市は個性ある郊外住宅都市としてこれまで発展してきており、本市の魅力の大きな部分を暮らしの場としての魅力が占めています。暮らしの場としての魅力は、気候、風土に加え、本市内で活躍する様々な民間主体の活動が創り出している部分も大きく、民間主体の活動の支援を通して、本市の魅力の向上を図ります。</li> <li>感染症や風水害等さまざまな災害に適切に対応し、安心して暮らすことができるまちづくりを進めます。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、魅力や安心に対する人々の意識が変化している可能性があります。ウィズ・コロナ時代の「魅力」「安心」のとらえ方に留意して取り組みを進めます。</li> </ul>			
	概 要	KPI (重要業績評価指標)	現状値	目標値
主 な 取 り 組 み	民間主体の活動の支援を通じた本市の居住地としての魅力の向上	「心地よく暮らせる居住環境」を魅力とする市民の割合	39.5% <sup>8</sup>	39.5%
	感染症の拡大防止、新しい生活様式の形成に向けた取り組みの推進	感染症対策や食中毒対策への満足度	18.4% <sup>9</sup>	18.4%

<sup>7</sup> 令和元年度茅ヶ崎市市民意識調査の定住意向に関する設問で、「ずっと住み続けていたい」と思う市民の割合

<sup>8</sup> 令和元年度茅ヶ崎市市民意識調査の市の魅力に関する設問で、「心地よく暮らせる住環境がある」と思う市民の割合

<sup>9</sup> 令和元年度茅ヶ崎市市民意識調査の食中毒や感染症などへの対策で、「満足」、「まあ満足」の市民の割合の合計

## 8 本戦略の推進にあたって

本戦略の推進にあたっては次の点に留意します。

- 具体の取り組みの検討にあたっては、デジタル化、オンライン化など新型コロナウイルス感染症を受けて加速している行動様式の変化を考慮して実施するとともに、その評価にあたっては新しい生活様式の下での活動も積極的に把握します。
- 総合計画実施計画が策定されておらず、本戦略と総合計画実施計画との一体化ができなかったため、本戦略は財政状況との整合を図ることができない状況で策定をしています。本戦略の推進にあたっては、各年度の事業実施方針やその時点の財政状況を踏まえながら取り組むこととします。
- 今後、総合計画実施計画を策定する際には、本戦略を見直したうえで一体化を図り、まち・ひと・しごと創生総合戦略の実行性を高めることを検討します。